

学生の読み聞かせに関する現状と認識

－教育実習における読み聞かせ状況の分析から－

杉山 喜美恵（教育方法）

I. はじめに

最近、読み聞かせブームといわれ、いろいろな機関が読み聞かせのイベントを企画し、実施するようになったが、それ以前から保育所や幼稚園は読み聞かせが行われる場として確固たる地位を築いてきた。そこで働く幼稚園教諭や保育士は読み聞かせの行為者としての役割を担っており、「読み聞かせ」は保育者を目指す者として身につけておくべき技術の一つであるといえる。

したがって、保育技術が学習内容のひとつである実習指導においても、「読み聞かせ」が取り入れられている場合が多いようだ。実習指導用のテキストにも「読み聞かせ」にページを割いている書物は多くみられる。

保育技術の中には、ピアノのように独立した科目で指導されているものもあり、他の保育技術についても、特定の科目が当てられているものもある。ただ、読み聞かせに関しては、特に独立した科目をあてている場合は少ないようであり、そのため、複数の科目の中で取り上げられることもある。それは、絵本が複合領域的側面を有していることと関連があると考えられる。

筆者も、実習指導の中で読み聞かせに時間を割いているが、指導していく過程で、実習でどれくらい学生は読み聞かせをする機会を得ているのか疑問に思うようになった。保育現場へでた場合、非常に高い頻度で読み聞かせをおこなう機会があることは、幼稚園や保育園での保育を拝見したり、学会発表や論文の数などからもうかがい知ることができる。

では、実習生となるとどうであろうか。実習の大きな目的として、養成校で学んだ知識と技術を実践し、自己の課題を明確にすることがある。学生は養成校で学んだ技術をどの程度実践

する機会に恵まれているのだろうか。

そこで、実習における読み聞かせの状況を調べるのが、今回の一つ目の目的である。その得られた知見をもとにこれからの実習指導の内容や方法を構築していきたいと考えている。

もう一つの目的は、学生の読み聞かせに対する認識を知ることである。

保育所保育指針や幼稚園教育要領に示されているように子どもたちの健やかな心身の成長にとって、絵本は重要なメディアであり、将来、保育者となるべき学生にとって、絵本をうまく使いこなしていく能力は必要とされる。その能力を獲得するためには、技術面をみがくだけでなく、その根底に、絵本に対する理解－愛情がなければならないと考えている。筆者は図書館の読み聞かせボランティアに所属し、地域での読み聞かせをおこなっているが、筆者自身、母親に絵本を読んでもらったり、お話をしてもらったことが、絵本に興味を持ち続けてきた原点となっている。

絵本に対する愛情はいかにして育まれるのか。それは、学生自身の読み聞かせをしてもらった体験と関連しているか。このことを明らかにしたいと思う。

絵本や本を子どものために読む行為については「読み聞かせ」をはじめ、「読みかたり」、「読みあい」など複数のことばが使われているが、拙稿においては、絵本をさまざまな人たちに読むという行為に対してもっとも一般的に使われているという理由で「読み聞かせ」ということばを使うこととする。

今回の調査に当たって、どの実習を対象にするか考えたが、期間が一番長いことと、幼稚園後期実習では、責任実習の段階までをお願いしており、参加実習は比較的多く行われているだろうこと、平成14年度入学生より、保育実習Ⅱ

と保育実習Ⅲが選択必修となっているが、まだ、歴史が浅いこと等を考慮して、幼稚園後期実習を選択した。

Ⅱ. 調査概要

1. 調査対象

東海女子短期大学児童教育学科幼児教育専攻 平成15年度入学生112名。

2. 調査方法

平成16年5月下旬から3週間の日程で行われた幼稚園後期実習について、開始前に調査用紙を配布し、記入の上、実習終了後提出するように指示した。

3. 調査内容

①幼稚園後期実習での読み聞かせについて

ア. 実習中に自分がおこなった読み聞かせの回数

イ. 時間帯

ウ. 対象児の年齢

エ. 対象人数

オ. 読み聞かせした絵本のタイトル

カ. 読み聞かせの難しいと思った点 (記述)

キ. 読み聞かせについて指導された点 (記述)

②学生自身について

ア. 読み聞かせが好きか

イ. 自分自身の読み聞かせを行ってもらった経験

ウ. 誰に読み聞かせをしてもらったか

エ. 印象に残っている絵本

オ. 幼稚園や保育園における読み聞かせしてもらった経験

カ. そのときに印象に残っている絵本

キ. 本を読むことは好きか (漫画以外)

ク. 自分のお気に入りの絵本があるか

Ⅲ. 結果および考察

今回は、非常にデータ数が少なく、またひとつの養成校という狭い範囲でのデータのため、信頼度に関しては残念ながら低いといわざるをえない。調査を始めて3年目であるが、今後同様の調査を重ねていくことにより、信頼度をあ

げていきたいと考えている。したがって、平成15年度入学生の結果として報告する。

まず、実習の間に学生がおこなった読み聞かせの回数だが、図1に示すように、112名中最低は0回、最高は20回で、平均は5.9回という結果であった。最も多いのが1回の23名、次いで10回の18名である。

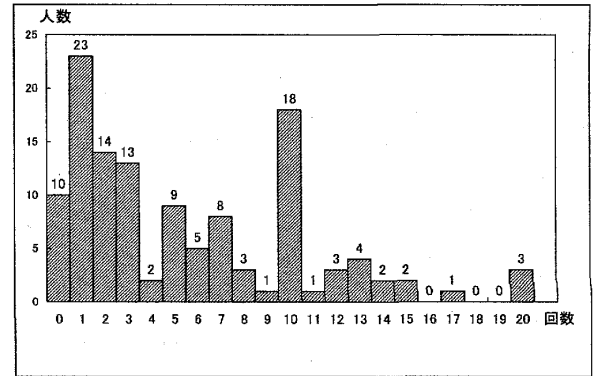


図1. 読み聞かせの回数

まったく行わなかった者も10名いた。予想したより少なく感じるのだが、今回は紙芝居を含めておらず、絵本に限定したことも影響していると思われる。なぜなら、「紙芝居は読んだけど、絵本は読まなかった」という意見も少なからずだされていたからである。

次に読み聞かせを行った時間帯についてだが(図2)、朝の自由遊び時、朝の会、昼食前、午後の保育時、帰りの会、降園後と保育の流れを時間でわけて質問した(複数回答)。また、「その他」という回答を付け加え、具体的な記述を求めた。時間設定にあたっては、設定保育を行っている園の平均的な一日の流れを前提にした。

その結果、帰りの会が74件で一番多く、次いで、午後の保育時、朝の自由遊び時と続いている。「その他」という回答も15件あり、2件の無回答を除いた13件の内訳は、昼食後が3件、おやつの時と担任の先生がいない時、すなわち実習生に任された時がともに2件、お楽しみ会、午睡前、絵本の時間、自由遊び時、主活動の時間が余ったときがそれぞれ1件という結果であった。

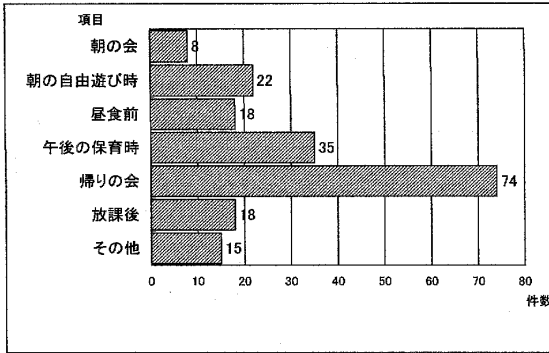


図2. 読み聞かせを行った時間帯（複数回答）

読み聞かせをおこなった子どもの年齢は、これも複数回答であるが(図3)、4歳児と5歳児がほぼ同数で、それぞれ52件、51件であった。3歳児は31件という結果になった。その他の2件は、全園児に対してという回答と、縦割り(複年齢)で行ったという回答であった。

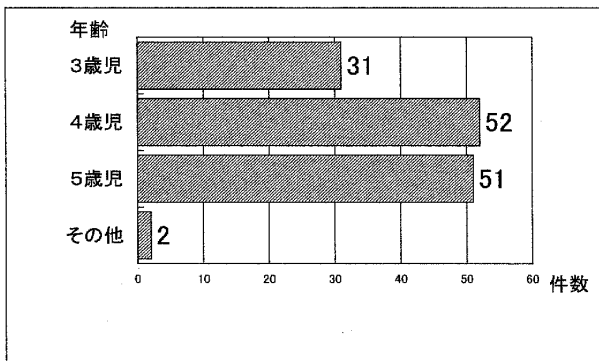


図3. 読み聞かせを行った子どもの年齢

次に読み聞かせを行った対象人数についてだが、この質問に対しても複数回答で回答を求めた(図4)。

この人数幅を決めるにあたっては、対個人と対集団の読み聞かせでは、どちらがよく行われたか調べることを意図した。その集団もたとえば自由遊び時のような少人数に対してか比較的多い人数、たとえばクラス全員に対してという場合を想定して設定した。

その結果、20名以上が79件と多く、絵本の読み聞かせが比較的大きな集団に対して行われたということがわかる。このことは配属クラスでの参加実習という形式を示している。

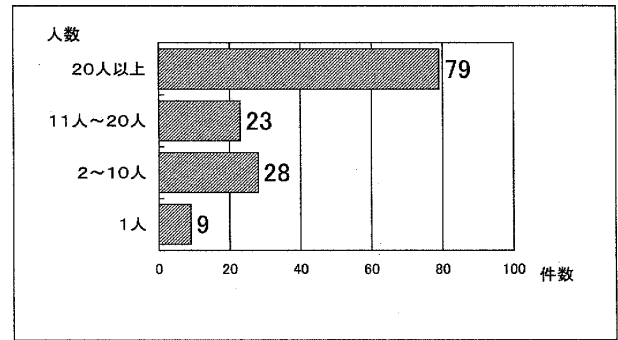


図4. 1回の読み聞かせの子どもの人数

次に記述回答を求めた質問に対して述べる。最初に、読み聞かせについて指導を受けたことについてだが、本の選定、事前準備、本の持ち方・立ち位置、導入、読み聞かせ時、終了時というように、読み聞かせを行う時間の流れによって項目をわけた(表1)。

73名の記述があり、1名の記述の中に複数の内容を含んでいるものもある。

表1. 指導を受けた項目

項目	件数
本の選定	3
事前準備	4
本の持ち方・姿勢・立ち位置	21
導入	7
読み聞かせ時	69
読後	1

本の選定についての項目は、3件で、季節や年齢、内容、量に配慮するということがあげられていた。

事前準備については、下読みをしておくこと、内容を把握しておくことなど4件であった。

本の持ち方・姿勢・立ち位置などについては、21件で、具体的な内容としては、「本の持ち方」については、「子どもが見やすいような高さ、絵に手がかからないような持ち方をする」、「手振れをしないように」ということがあげられていた。「姿勢」については、「字を読もうとして頭を前に出しすぎないように」、「前かがみになると表情がわからなくなるので後ろに紙を貼ってそれに字を書きしておくなどの工夫をする」こと

があげられていた。これは大型絵本を読むときに指導された項目である。「立ち位置」については、「全員の子どもから見えるような位置」、「本が光等で反射しないような位置」、「子どもとの距離のとり方」などで、一番前のラインを決めておくことも必要だと記されていた。

導入に関しては7件の記述があり、一番多かったのは「読み聞かせる前に手遊び等をして子ども達を集中させる」という項目が6件あった。子どもを注目させるための手段として手遊びを行うことについては反対意見もあるが、幼稚園などでは、手遊びのひとつの役割としてとらえ、活用していくことも多く行われているようだ。ほかには、「子どもたちが全員しっかりと聞ける体勢になるまでは読み始めないこと」「読む前に表紙や裏表紙を見せて子どもの興味をひく」という事柄があった。

読み聞かせ時については、69件という一番多い記述が見られた。具体的には「読み方」についてが47件でその中で最も多かったのは「声に抑揚をつけること」であった。読み聞かせに関する本には、「声に抑揚をつけること」に対して批判的な書き方をしているものもあるが、保育現場で実際に読み聞かせをしている先生方はある程度、抑揚があった方が子どもにはよいと考えているように思われる。類似した記述としては「登場人物によって声を変える」というものも5件見られた。

ほかには、「大きな声で」が9件、「ゆっくりと読む」6件、「間をとる」3件、「緩急をつける」3件、「心をこめて」が2件であった。

読み聞かせ時のもうひとつの項目、「聞き手に対する配慮」では、12件の記述があり、具体的には、読みながら子どもたちの顔を見て、子どもたちの反応を確かめながら読むこと、途中、質問をいれながら読むこと、聞いていない子にはことばがけをするなどがあつた。

読後については、1件のみの記述にとどまった。絵本を読んだ後のまとめは非常に大切なことであると考えているので、その点についての指導がもっとあるべきではないかと感じた。学生が読後のまとめを上手に行ったため、その点についての指導が少なかったとも考えられるが、

保育現場ではデイリープログラムとしてあるいは時間調整のために絵本を読むというように形式化してしまっているのではないかと危惧される。技術も大切だが、それ以外の部分での指導も必要であると考え。その点については、もう少しを詳しく調べる必要がある。

次に、実際に読み聞かせをしてみて難しかった点についてだが、一番多かったのは、「読み方」についての記述であった。これは全体で106名の記述中の84件、約8割の学生があげていた。(図5)

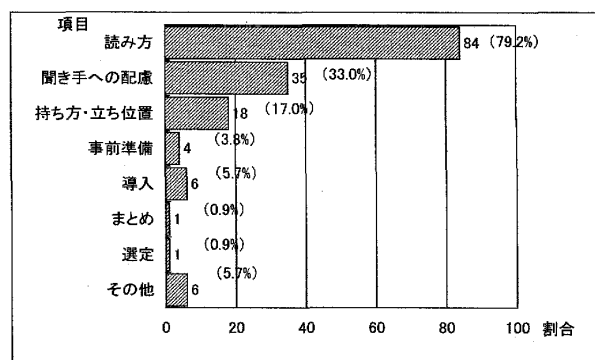


図5. 読み聞かせで難しかったこと

具体的には、「登場人物の声の使い分け」が38件、「声に抑揚をつけること」14件、「感情をこめて読むこと」12件、「読むスピード」8件、「間の取り方」8件、「声の大きさ」4件だった。

次は「聞き手への配慮」で35件、具体的には、最後まで子ども達を読み聞かせにひきつけておくこと、また、途中であきってしまった子、話を始めてしまった子にどのように言葉がけや援助をしていくかということがあげられていた。

本の持ち方や立ち位置に関してが18件、事前準備に関してが4件、その他が6件だった。

その他の項目としては、「横からみると文字が読みにくい」、「よく読んでもらっている絵本を自分なりに工夫すること」、「初めて渡された絵本を読むこと」などだった。

学生にとって絵本の読み聞かせにおける難しい点というのは登場人物によって、声をかえたり、感情をこめて読んだりすることなど「読み方」の問題と子ども達をどうやったら、絵本の世界にひきつけておけるかという2点であることがわかった。

幼稚園で読み聞かせが行なわれた絵本については、全部で171タイトルあげられていたが、ここには3件以上の記述があったものをあげる(表2)。非常に多くの絵本が読まれていることがわかる。

表2. 読み聞かせた絵本

絵本	件数
ぐりとぐらシリーズ	10
アンパンマンシリーズ	6
そらまめくんシリーズ	5
ちいさなきいろいかさ	5
はみがきの絵本	5
6月の絵本	4
おおきなかぶ	4
はらぺこあおむし	4
10びきのカエル	3
11びきのねこシリーズ	3
3びきのやぎのがらがらどん	3
ザリガニの絵本	3
だれのじてんしゃ	3
ばばあちゃんシリーズ	3

関連タイトルが多くあるのでシリーズものが上位にあがっているが、「ぐりとぐら」や「アンパンマン」など比較的有名なシリーズであり、単独タイトル絵本としては、『おおきなかぶ』や『はらぺこあおむし』などがあがっている。

特徴的なのは、5月下旬から6月上旬にかけてという実習時期を反映してか、「雨」や「かえる」「おたまじゃくし」「時計」「はみがき」に関連した絵本が多く見られ、ここにあげられなかった絵本の中にも『あめのひのころわん』、『おじさんのかさ』などが多くみられた。やはり季節と関連している絵本が保育現場では取り上げられているようだ。

次に、学生自身の状況についてまとめてみたいと思う。

まず、読み聞かせすることは好きかということに対する回答では(図6)、「好き」と答えた学生がもっとも多く、83名で74.8%。「きらい」と答えた学生は6名で5.4%、「どちらでもない」と答えた者が22名で19.8%という結果になっ

た。およそ4分の3の学生が読み聞かせは好きであると答えている。

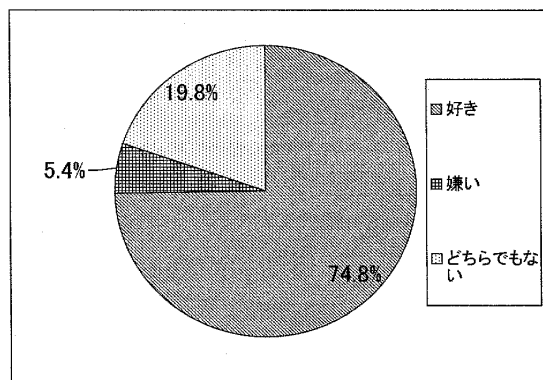


図6. 読み聞かせが好きか

理由としては、まず「読み聞かせが好き」という理由から述べるが、「子どもたちが楽しそうに、わくわくしながら絵本をみていてくれるからです。また、私も絵本が好きだからです」のように一人の記述で複数の理由をあげている学生もいるが、大まかには「子どもの反応」、「お話の世界を共有できる」「絵本(読むこと)が好き」という3つにまとめられた。

「子どもの反応」というのは、たとえば「子どもたちが本に夢中になっていく姿をみたり、のめりこんでいく姿を見ると自分も嬉しくなる」、「子どもがその世界にひたっている姿をみるのがとてもうれしい」などに代表されるように子どもが絵本を読み聞かせることに対してさまざまな反応をしたり、目をキラキラ輝かせたり、楽しんでる様子を見ることで自分も楽しい、あるいは勉強になるということで65件の記述があった。

「お話の世界を共有できる」ということでは、「一緒に共通の物語を体験することができるから」、「絵本からいろんなことを子どもと共に感じ取って、たくさんの発見をし、感動しあえるから」、「子どもたちと共感できる」という記述に代表されるように、絵本を通して子どもと同じ世界を体験し、わかちあえることが楽しいということで10件の記述があった。

そして「わたしが読み聞かせてもらうことが好きだったから。保育士の魔法にかけられているみたいで。だから子どもにも体験して欲しい、

「自分自身、絵本が好きなので子どもたちにも絵本の楽しさや面白さを味わってほしい」に代表されるように「絵本や読み聞かせることが好き」というものが 21 件あった。

「嫌い」な理由としては、「読むことが苦手」というのが 6 件で一番多く、なかには「読み聞かせをあまりしたことがないから」、「絵本は読んだことがないし、読んでもらう機会もあまりなかったから」という記述もそれぞれ 1 件ずつみられた。今回は、データ数が少ないため、それぞれの記述自体も少ないが、今後、同様の調査を重ねていき、絵本に親しむ機会が少なかったことや読むことの苦手意識が読み聞かせることの苦手意識にどのように影響を与えているか調べていく必要があると感じた。

特異なものとして「子どもたちにとってはおもしろいと思う本でも、私にとってはあまり面白くない絵本もあるから」という意見があった。

「どちらでもない」と回答した学生の理由としては、「読むことは苦手だが子どもの反応は楽しい」、「読むのは楽しいが配慮事項が多い」という 2 つにまとめられた。前者には「緊張する」ということも含まれている。配慮事項というのは、人数、少人数では読みやすいが人数が多くなると全員を集中させることが難しくなるということがあげられていた。これはこれから経験をつんでいくことで克服できることではないかと考えられる。

次に、小さい頃の読み聞かせの経験について述べる。

「小さい頃、読み聞かせをしてもらったか」という問いに対しては「よくしてもらった」「時々してもらった」をあわせると約 8 割の学生が読み聞かせをしてもらったと答えている(図 7)。「よくしてもらった」と答えた学生が実際にすべて同じ頻度で読み聞かせをしてもらったわけではないであろうが、これはかなり高い割合であると思われる。

その他の 6 名の内訳は、4 名が「覚えていない」と答えており、1 名が「わからない」1 名が「1 回もしてもらったことがない」であった。

読み聞かせをしてもらった人は圧倒的に「お母さん」が多く、83 名であり、次いで「おばあ

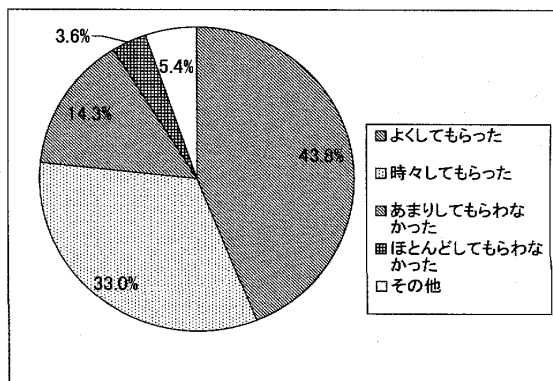


図 7. 幼少時代の読み聞かせ経験

さん」が 10 名、「お父さん」が 9 名でほぼ同数であった。その他の 1 名は「従業員」であった(表 3)。

表 3. 読み聞かせしてもらった人

人物名	件数
母親	83
父親	9
祖母	10
祖父	0
兄・姉	0
その他	1

読み聞かせをしてもらった絵本の中で印象に残っている絵本をあげてもらった結果、106 件の記述で 64 冊のタイトルがあげられた(表 4)。

一番多くあげられたのが昔話(日本・世界)で 23 件、次いで「ノンタンシリーズ」で 11 件、「ぐりとぐら」シリーズで 9 件、であった。『はらぺこあおむし』が 6 件、単独のタイトルでは、この本が一番多くあげられていた。

昔話(日本・世界)については、8 件であったが、単独であげられている「ももたろう」(2 件)、「さるかに」、「かぐやひめ」、「かちかちやま」、「海の水はなぜからい」、「こぶとり、

「ブレーメンの音楽隊」、「人魚姫」、「白雪姫」、「眠りの森の美女」、「三匹の子豚」、「親指ひめ」、「きんのおのぎんのおの」、「大きなかぶ」まとめると 23 件となる。

表4. 印象に残っている絵本

種類・タイトル	件数
昔話 (日本・世界)	23
のんたんシリーズ	11
ぐりとぐらシリーズ	9
はらぺこあおむし	6

このことより、読み聞かせてもらった絵本としては昔話が印象に残っていると答えた学生が多いということがわかる。しかし、64タイトルの中には、『わたしのワンピース』、『さっちゃんのみほうのて』、『はじめてのおつかい』などの創作絵本も2件以上あげられた絵本に含まれていた。

次に、幼稚園や保育園での読み聞かせ経験について試みる。

幼稚園や保育園で読み聞かせを「よくしてもらった」と答えた学生は36名で33.3%。「時々してもらった」と答えた学生は16名で14.8%。「あまりしてもらわなかった」が1名。「ほとんどしてもらわなかった」が2名であった(図8)。

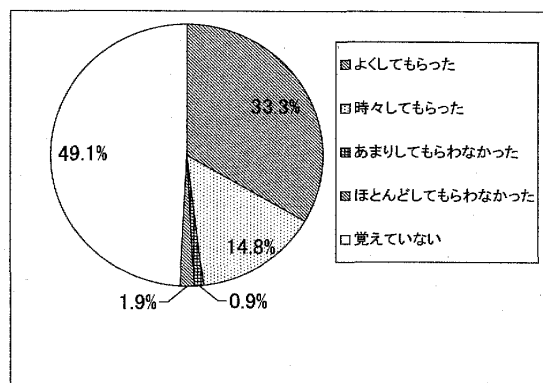


図8. 幼稚園、保育園での読み聞かせ

この結果から、「してもらった」というものが48.1%で約半数の学生が幼稚園や保育園で読み聞かせをしてもらったと答えている。しかしその反面、「覚えていない」という学生も約半数いた。

幼稚園や保育園で読み聞かせをしてもらった中で印象に残っている絵本をあげてもらったところ、家での読み聞かせでは106件の記述があったのに対し、30件の記述にとどまっていた。

一番多くあげられたのが『3びきのやぎのが

らがらどん』で4件、「ノンタンシリーズ」が3件、そのほかには表5に示されるようなタイトルがあげられた。

この傾向は、今の学生が幼稚園時代、すなわち1985年前後には、現在のようないわゆる「読み聞かせ」ブーム以前であり、幼稚園や保育園で「読み聞かせ」が盛んではなかったのか、それとも読み聞かせ自体は行なわれていたが、学生の記憶の問題なのか今後調査を続けていくこ

表5. 幼保の読み聞かせで記憶にある絵本

タイトル	件数
3びきのやぎのがらがらどん	4
ノンタンシリーズ	3
おおかみと7匹のこやぎ	2
アンパンマンシリーズ	2
三匹のこぶた	2
エルマーの冒険	2
わたしのワンピース	2
てぶくろ	2

とで少しずつ解明していきたいと考えている。

次に「本を読むことが好きか」という質問に対する答えだが、「非常に好き」と答えた者が13名で11.8%、「わりと好き」と答えた者が63名で57.3%、両方あわせると、約70%の学生が本を読むことが好きであると答えている(図9)。

その他の4名は「絵本は好き」と答えた者が2名、「本による」と答えた者が1名、「普通」と答えた者が1名という結果であった。

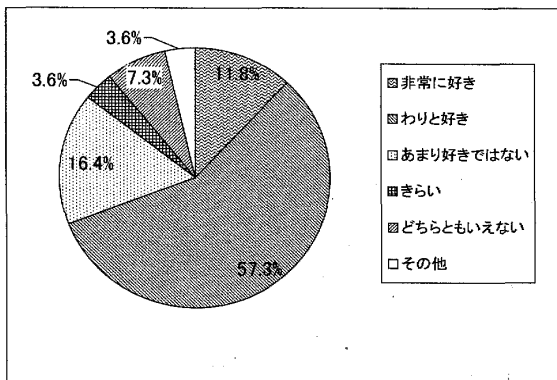


図 9. 読書は好きですか

次に読書が好きなことと読み聞かせが好きなこと、小さい頃読み聞かせをしてもらった経験と読み聞かせが好きなことの関連を調べるために、クロス集計を行った。

その結果を「よくしてもらった」「時々してもらった」を統合して「読み聞かせ経験あり」のグループとし、読書が好きかどうかをグラフにしたものが図 10 である。

このグラフを見る限りでは、読み聞かせ経験ありの学生は約 7 割の学生が本を読むことが好きと答えているという結果がでた。

今回はサンプル数が少ないため、グループごとの比較は行わなかったが、今後、グループごとの分析も進めて行きたいと考えている。

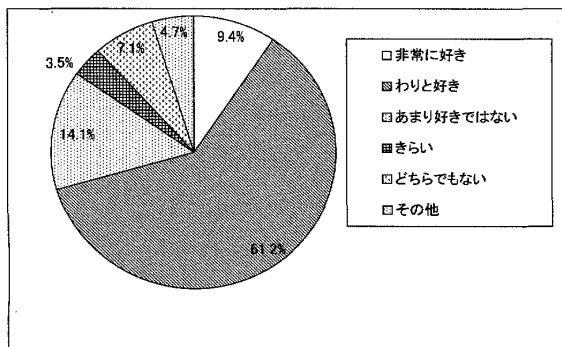


図 10. 読み聞かせ経験ありと読書好きの関係

同様に、「読み聞かせ経験あり」のグループの読み聞かせが好きかどうかをグラフにあらわしたものが図 11 である。

この図より、読み聞かせをしてもらったという学生の 76.5%の学生が読み聞かせることが好きだと答えていることがわかった。

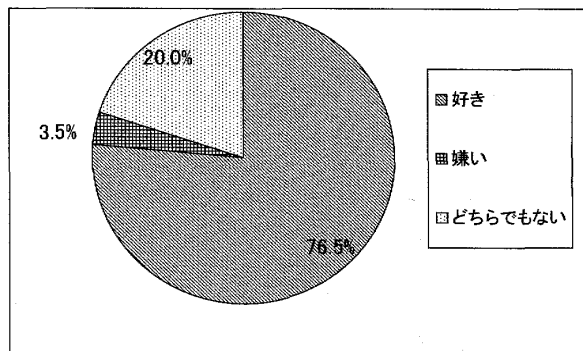


図 11. 読み聞かせ経験ありの学生の読み聞かせに対する感情

最後に学生の好きな絵本についてあげてもらい、今の学生がどのような絵本を好んでいるかを調べてみた (表 6)。

全部で 82 件の記述があり 2 件以上あげられていたのが表 5 にあげられた 8 冊である。2 件以上が 8 冊しかないことからみると、「みんなが好き」ということではなく、学生の好きな絵本は比較的個人で異なっており、それぞれが「お気に入り」を持っているようである。これは必ずしも幼少時に読み聞かせしてもらった絵本には限られていない。

表 6. 好きな絵本

タイトル	件数
はらぺこあおむし	12
100 万回生きたねこ	5
こんとあき	2
てぶくろ	2
となりのせきのますだくん	2
どれだけきみがすきだかあててごらん	2
はじめてのおつかい	2
ぼちぼちいこか	2

一番多くあげられていたのは『はらぺこあおむし』でその理由としては「色彩がきれい」というものが多く、ついで、仕掛け絵本になっていることやストーリーのおもしろさがあげられていた。『はらぺこあおむし』はエリック・カール氏の代表的な絵本であるが、現在でも定番の絵本としてあげられている。

次いで『100 万回生きたねこ』で、理由としてストーリーが感動的であることをすべての者があげていた。

IV. まとめ

今回は、幼児教育専攻平成15年度入学生112名に対し、幼稚園後期実習でおこなった絵本の読み聞かせの現状と学生自身の読み聞かせに関する経験を調べた。その結果、以下のことがわかった。

1. 幼稚園後期実習において、学生が読み聞かせを行った回数は、平均して約6回。読み聞かせをおこなった時間帯は帰りの会が最も多く、対象年齢としては、4歳と5歳が多く、対象人数は20名以上が多かった。
2. 指導された項目としては、読み聞かせそのものに対する項目が最も多く、学生が難しかった点と一致する部分が多かった。特に登場人物によって声をかえること、声に抑揚をつけるなどが多かった。
3. 読み聞かせに関しては8割の学生が「好き」と答えており、その理由としては、子どもが楽しんでいる様子を見るのがうれしい、絵本が好きだから、一緒にお話の世界を共有できるということであった。
4. 読み聞かせが「きらい」という学生の中には「絵本は好きだが読み聞かせることが苦手」という理由も多く、技術的なことを指導し、また経験を積む機会を作ることによって苦手意識を克服させていかなければならない。
5. 小さい頃の読み聞かせについては、約8割の学生が「してもらった」と回答しており、してもらった人は母親が多かった。しかし、幼稚園や保育園での体験については、約半数の学生が「覚えていない」と答えており、このことについてはもう少し調査が必要である。
6. 本を読むことについては、約6割の学生が好きだと答えていた。
7. 読み聞かせの体験と読み聞かせることが好きなこと、また本を読むことが好きなこととの関連については、読み聞かせの経験ありのグループのうちの7割が本を読むことが好きであり、7.5割の学生が読み聞かせ

が好きだと答えていた。今後、サンプル数を多くし、読み聞かせありとなしの両グループの比較を行い、より深く関連性を調査していきたいと考えている。

8. 学生の好きな絵本は、約7割の学生があげており、『はらぺこあおむし』が12件で一番多かった。しかし2件以上のタイトルが8冊しかなく、比較的「自分のお気に入り」を持っているということがわかった。このことは、将来、保育者を目指している学生にとっては大切なことであると考えている。

V. おわりに

今回の調査から、参加実習としての読み聞かせは3週間で平均6回であったが、学生によって回数のばらつきが大きく、差がみられることがわかった。理由としては学生の能力や実習園の読み聞かせに対する姿勢によるところが大きいかもしれない。ただ、紙芝居を除外したため数の上では少なくなっているとも推測される。

指導された項目が技術面に偏っているのも気にかかる。読み聞かせの醍醐味はなんといっても三項関係が成立している場から得られる快の感情であると思う。実習はそれを体験できる貴重な場であるということを保育現場、養成校ともども再認識していく必要があると考える。もちろん、技術が伴うことも重要であるが、それだけに偏りすぎないように、配慮していく必要がある。

また、小さい頃に読み聞かせをしてもらった体験がある学生の7割が本が好き、読み聞かせが好きであると回答した結果をどのように分析していくか難しいところであるが、少なくとも読み聞かせの体験がプラスに働いているという可能性は示唆されたので、今後、より多くのデータを集めて調査していきたい。

この原稿は絵本学会第8回大会で発表されたものに加筆・修正したものである。

参考文献

- 1) 古橋和夫：子どもへの絵本の読みかたり，
萌文書林，2002
- 2) 阿部恵：いつでもそばに保育絵本の楽しみ，
フレーベル館，2004
- 3) 別冊太陽編集部編：この絵本が好き！2003
年版，平凡社，2003
- 4) 松井直：絵本のよろこび（NHK 人間講座），
日本放送出版協会，2002
- 5) この本読んで2007 夏号，財団法人出版文
化産業振興財団，2007
- 6) 文部省：幼稚園教育要領
- 7) 厚生省：保育所保育指針
- 8) 新・保育士養成講座編纂委員会編：保育実
習，全国社会福祉協議会，2002
- 9) 玉井美知子監修：幼稚園教育実習，学事出
版，2002
- 10) 秋山和夫監修：保育の絵本研究，三晃書房，
1993
- 11) エリック・カール作／もりひさし訳：はら
ぺこあおむし，偕成社，
- 12) 間所ひさこ、黒井憲：あめのひのころわんー
ころわんシリーズ，ひさかたチャイルド，
1992
- 13) 佐野洋子：おじさんのかさ，講談社，1992
- 14) 佐々木宏子：絵本は赤ちゃんから，新曜社，
2006
- 15) 林幸範他編：保育園幼稚園の実習完全マニ
ュアル，成美堂出版，2005
- 16) 月間モエ2007年6月号，白泉社，2007
- 17) 絵本学会機関誌編集委員会：絵本 BOOK
END，絵本学会，2007
- 18) 浜田寿美男：「私」とは何か，講談社，1999

－児童教育学科・幼児教育専攻－